

産業常任委員会管外視察報告書

1. 調査日

令和6年7月24日(水) ～ 7月25日(木)

2. 調査委員

上ヶ吹 豊孝(委員長)、森 要(副委員長)、野村 勝憲、井端 浩二、小笠原 美保子、佐藤 克成

3. 調査先

- 7月24日 ①グリーンクリエイティブいなべ事業(三重県いなべ市)
②オーガニック宣言の取り組みについて(三重県尾鷲市)
- 7月25日 ③集落営農と農業第6次産業化推進について(三重県多気郡多気町)
④亀山市のまちづくりについて(三重県亀山市)

4. 調査目的

グリーンクリエイティブ事業、オーガニック宣言、農業第6次産業化、まちづくりの観点から先進的な取り組みを行っている自治体及び民間団体を抽出し管外視察を行った。

5. 調査事項

①グリーンクリエイティブいなべ事業(いなべ市)

いなべ市は、人口44,000人とほぼ飛騨市の2倍。名古屋から車で約50分。自動車関連企業が進出し活力ある街として発展。高齢化率27%と低く、働き世代が多く若者が住みやすい町。

いなべ市役所に併設のにぎわいの森を整備し、農業振興や正業・就業促進、商業・観光振興、市民協働の促進など、まちづくり・人づくりの拠点として活動。自ら地域に根差した事業者として自立した活動がSDGsモデル事業として成功している。飛騨市も参考にすべき姿だと感じた。自然、里山、農産品な地域資源「グリーン」を活かしたまちづくりの取り組みが評価され、SD



▲いなべ市(ふれあいの森)での視察

G s 未来都市 2020 及び東海初の自治体 S D G s モデル事業に選定されている。

グリーンクリエイティブ事業は一般社団法人が企画・運営し事務所を市役所 2 F に設置して、いなべ市と市民・企業・移住者をつなぐ役割を果たしている。

いなべ市新庁舎を建設時にもともと放置されていた森林 1.2ha をにぎわいの森として整備して、出店者を募ってマルシェを運営。年間 30 万人が訪れる。市役所もモダンで、内部も案内表示が良い。

庁舎の事務環境が良く、先進的文書管理をしており、将来飛騨市が新庁舎を建設するときの参考にしたい。まちづくり事業では、フリーペーパーを制作し、いなべ市で暮らす移住者は様々な職業を取り上げ情報発信に取り組む。また、妄想・構想会議を開きいなべ市の今とこれからを考え、アイデアをし合い共感でつながる仲間づくりをされ、見習うことが多い。外部人材として地域おこし協力隊や地域活性化企業人、集落支援員などと上手く連携している。いなべブランドとして、地域商社や各種団体と連携企画して商品開発をしている。

飛騨市も S D G s の取り組みを学ぶとともに、まちづくりのグランドデザインを描き、その計画案を官民で推進することが大切と感じた。

②オーガニック宣言の取り組みについて（尾鷲市）

合併時の人口は 33,188 人であったが、市政 70 周年の現在は、約 53%減の 15,650 人。高齢化率は 46.2%で人口の 84%が市街地に集中し空家が多く見られた。

尾鷲市は、三重県で初めて「漁業と林業と有機農業の町」としてオーガニックビレッジ宣言を行い、市の特産である甘夏の有機栽培に取り組むことで、尾鷲の農業を取り巻く諸課題に対応しようとしている。一般市民向けの有機農法セミナーで家庭菜園の取り組みや学校給食へ有機栽培の甘夏ゼリー導入でオーガニック宣言都市らしく市民への理解が深まっているように感じた。市民にまず理解をしていただく努力が実を結びつつある良い事例だと思う。



▲尾鷲市での視察

甘夏の価格低迷の中で、化学肥料や農薬を使わない有機農業を導

入し、より美味しく、安心・安全な甘夏で取引価格が上がり販路拡大。作業の省力化、土壌・海・生物多様性を守ることにもつながっている。また、「ゼロカーボンシティ宣言」として尾鷲市は、二酸化炭素吸収に取り組み、森林の吸収量の増加を目指した森林整備を行い、森林系 J クレジット取得申請中とのことで、令和 4 年 3 月にゼロカー

ボン宣言をした飛騨市より積極的に進んでいると感じた。漁業では、海藻海面養殖における漁業と連動した吸収の検討としてブルーカーボンクレジットの創出に取り組んでいる。

農地耕作放棄地も増え、持続可能な林業・漁業・農業を続けていくために飛騨市と同様担い手の対策が大切だと感じている。

③集落営農と農業6次産業化推進について（多気町：ふるさと屋）

多気町は平成 18 年 1 月に多気町と勢和村が合併し人口は 15,793 人であった。現在は約 14%減の 13,679 人。「世界かんがい施設遺産」に登録された 28 kmに及ぶ立梅用水がある。この立梅用水の開発は地士西村彦左衛門らが尽力し 200 年前に完成。一般社団法人ふるさと屋は西村彦左衛門の生家を拠点に地域資源（立梅用の歴史・文化・地域用水機能）を活用したまちづくり事業（獣害対策、老人・子供の見守り対策事業、防災対策事業）を実践している。また、ふるさと屋では、6次産業化の推進として、米粉のパンケーキミックスを開発し地域で生産される農産物のブランド化にも挑戦している。



▲ふるさと屋での視察

ふるさと屋を含む多気町の地域資源保全・活用協議会では延べ 700ha の農地の維持管理に多面的機能支払交付金による活動をしている。具体的には、農地維持支払い交付金を活用して、施設の点検、研修会の開催、畦畔の草刈りや水路の泥上げ、農道の路面補修など活動している。また、資源向上支払い交付金を活用して、施設の軽微な補修、休耕田を活用した花の植栽など農村環境保全、遊休農地の活用、農村体験など多面的機能の増進を図る活動をしている。

日々の活動をHPや各種SNSを利用し情報発信にも努め、ICTと再生可能エネルギー（小水力＋太陽光）を活用して農村福祉活動（獣害対策、老人の見守り、防災対策）をしている。デジタル田園構想によりスマート農業の推進に取り組んでいる。

各集落単位で活動するのではなく、広域的に連携し、協議会を組織することにより様々な点で協力し効率的に農地に関わる活動が出来ており、非常に学ぶべき点が多い。

④亀山市のまちづくりについて（亀山市）

亀山市は平成 17 年 1 月に亀山市と関町が合併し人口は 49,253 人であった。現在も 49,000 人を維持し、財政力指数は 1 に近い水準で推移。古代から日本三関の一つであ

る鈴鹿の関があった地で、都と東国を結ぶ交通の要衝として栄えてきた。亀山市内では、東海道の宿場町がいくつか点在し、歴史・ひと・自然が心地よい「緑の健都 かめやま」を目指し、持続的に発展し続けられるまちづくりをしている。

鉄道や国道1号、各高速道が整備され、企業が立地する内陸産業都市として発展。リニア中央新幹線の三重県での新駅計画もあり、駅周辺、市街地再開発等戦略的な都市づくりが行われている。市民、



▲亀山市での視察

事業者、行政が協働しての景観のまちづくりを推進している。景観をキーワードにしたまちづくりは見習いたい。

6. 調査を踏まえた今後の取り組みについて

①いなべ市は名古屋から車で50分ということで自動車関連企業が進出していることから働く世帯が多く暮らすまちで高齢化率も27%と低く飛騨市の40%を超える市と比べると活気あふれる街であると思われる。

そんな中で放置された森林1.2haを整備し、自然、里山、農産品などの資源（グリーン）にあふれていて、これらの持つ価値を、独自に高め都市とは違う形で輝かせるグリーンクリエイティブいなべの施設を作られ、休日には家族連れでにぎわいの森として人々に愛されている。飛騨市としても、耕作放棄地や森林面積の多い所でもあるので今後も参考にしてにぎわいのある都市づくりに期待したい。

②尾鷲市は山林面積90%、人口は14,600人で毎年約400人減少していて飛騨市と特色が似ている市である。尾鷲市は「漁業と林業と有機農業の町」としてオーガニック宣言を行っていたので今飛騨市でも取り組もうとしている課題だったので視察に行った。特産品である甘夏の有機栽培に取り組まれていたが、我々が今取り組もうとしている野菜の有機農業とは、少し違うが化学肥料を使わない安全・安心な甘夏みかんを生産することで市民に理解していただく取り組みは良いと感じ最近家庭菜園での有機農法の市民向けセミナーに取り組まれたとの事で今後も尾鷲市の有機農業には注視していきたい。

③この地域はスマート農業の先進地と思わせる色々な取り組みをしている地域であった。特にデジタル化は衛星アプリ会社と大学と連携しこの地域を試験フィールドと

して上手く利用してデジタル化を進めています。そのデータを各農家さんに情報を共有し生産向上に役立てている。また6次産業にも力を入れて米粉の販売に力を入れている。(かぼちゃ、お茶、サツマイモ)等をブレンドしてSNS等を利用したPRで販路を拡大している。

また、飛騨市と同様に農作物の獣害被害が多く現在監視カメラと追い払いスピーカーで対策をしている。

今後飛騨市とも農業環境や農業人口減少等大いに参考になると思われるので意見交換など交流を深めたらよいと思う。

④飛騨市と同じく歴史的な建造物の維持及び向上を図るための取組をされ、また都市づくり景観づくりに取り組まれているので飛騨市としても参考になると思われる。